Bunkazai Design Contest 2024

—北海道の歴史文化を暮らしのグッズに

審査結果発表

主 催：NPO法人北海道遺産協議会

北海道遺産
Hokkaido Heritage

実施概要

応募者について

応募作品数
50作品

応募人数
38名

- 国内外、幅広い世代からの応募あり。（道内は14名）
- グラフィックデザイナー、学生、一般の方々など

審査基準

文化財の魅力を伝えるもの ／ 独自性のあるもの ／ 商品力

審査員

伊藤 千織（伊藤千織デザイン事務所） ／ プロダクトデザイン

照井 康穂（株式会社照井康穂建築設計事務所） ／ 建築

平塚 智恵美（有限会社叶多プランニング） ／ 商品化、アートマネジメント

野村 ソウ（株式会社スタジオワンダー） ／ グラフィックデザイン

酒井 秀治（北海道教育大学 岩見沢校） ／ まちづくり、コミュニティデザイン

矢野 ひろ（NPO法人北海道遺産協議会）

※次ページ以降に掲載の作品は、ご応募いただいた時点での内容となります。表記の相違などにより、グッズ制作の際にデザインが一部変更となる場合があります。

審査員講評

照井　康穂（株式会社照井康穂建築設計事務所）

本年度も道内外そして海外からもご応募いただき有り難うございました。力作ぞろいでどの作品にもそれぞれの魅力があり選考に迷うところもありましたが、テーマの「暮らしの中で持ち歩きたい、誰かと話したくなる北海道遺産」を心に留めて選考を進めました。入賞の2作品は共に色彩のバランスも良く、トートバックにした際にテーマを素直に感じられることを高く評価しました。佳作の「歴史の面立ち」は顔の変化に着目したイラストから自ずと歴史を感じられるのが秀逸です。入選の「むかわの冒険」は圧倒的なイラストのクオリティーの高さに脱帽ですが、トートバック全体のデザインには検討の余地があったかと思います。「Sapporo Soft Stones」は建築の特徴と軟石の質感が上手に表現されていることに惹かれました。ご応募いただきました皆様のご活躍を期待しています。

伊藤 千織（伊藤千織デザイン事務所）

今年度は、コレ！と一目で分かりやすい建造物やモチーフの作品より、かたちにし難い自然や地域文化・歴史などを、ストーリー性で見せる作品の多さが印象的でした。最終選考には高い力量の作品が残り、甲乙つけがたく苦慮。その中でも、音楽と指揮者を巧みに融合させ理念を表現した「パシフィック・ミュージック・フェスティバル」の洒脱なイラストは目を引きました。「旭川家具」を童話のような高い完成度のCGで表現した作品や水墨画など、特に今回は表現の幅が広かったと思います。次回はぜひ、文字を入れる場合のバランスにも配慮して。

酒井　秀治（北海道教育大学 岩見沢校）

テーマにある「持ち歩きたい、誰かと話したくなる」とはどんなことなのか、毎回気づきがあります。ぼくは、ありがたいことに毎年試作品のトートバッグをいただき、かなりの頻度で使わせてもらっています。周りの人につっこんでもらえたら嬉しい。なので、やはり使い手のイメージとコミュニケーションのフックがセットでデザインされていることが大切ですね。（勿論グラフィックの作家性とインパクトもですが）。エゾリスのミニチュア世界をCGで表現した「暮らしのまんなかに、旭川家具」について、「自分の娘は絶対これを持つだろう」とのご意見、確かに！

平塚　智恵美（有限会社叶多プランニング）

事前採点から「むかわ町に眠る恐竜たちの夢」（むかわ）と「音楽の輪が生む平和と調和の未来」（PMF）は自分の中で群を抜いていた。審査会の1次集計でも両者の点数が高く、改めて全体を見回す審査となった。

PMFは、理念にもある「平和」と「調和」が大小さまざまな円によってリズミカルに配置され、音楽の楽しさを感じられる。一方、むかわは、審査委員の中でも構成やデザインの面で賛否あったがポップで楽しい色彩は老若男女に愛されるだろう。

2作品とも、販売されることがイメージされ審査でも「商品化」を重視した。お金を払ってでも欲しくなるエコバック！その視点は次回も重要視されることだろう。

野村　ソウ（株式会社スタジオワンダー）

「誰かと話したくなる」というポイントにおいて効果的な作品はいくつかありましたが、それをトートバックというファッション性もともなうデザインの観点から考えた際に、今年は少し物足りなさも感じました。自由な制作から生まれた表現はどれも魅力的でしたが、グラフィックデザイナーの観点から、タイポグラフィ・レイアウトを練った作品も、もう少し見てみたかったというのが正直な感想です。唯一CG作品の「暮らしのまんなかに、旭川家具」。トートとしては定着のアイデアがもう一歩必要かと感じましたが、自由な表現でストーリー性を感じ気になる作品でした。受賞者の皆様おめでとうございます。

矢野　ひろ（NPO法人北海道遺産協議会）

歴史・文化には様々なストーリーがありますが、それを表現しようとするとき、シンボリックなモチーフで明示的に伝えるか、それとも、作家が読み込んだストーリーのイメージを描き、みる人との間に想像の余白をもたせるか、文化財との距離感や表現の多様性を改めて感じた今回のコンテストでした。選考にはさらに商品力という視点も加えつつ、生活者が手にとり作品がひとり歩きしたときに、他の誰かと話したくなるような文化財への興味の喚起、イメージが伝わりやすい作品を選考させていただきました。ご応募いただいた素晴らしい作品の数々、ありがとうございました。

受賞作品

入賞

むかわ町に眠る恐竜たちの夢

［むかわ町穂別の古生物化石群］

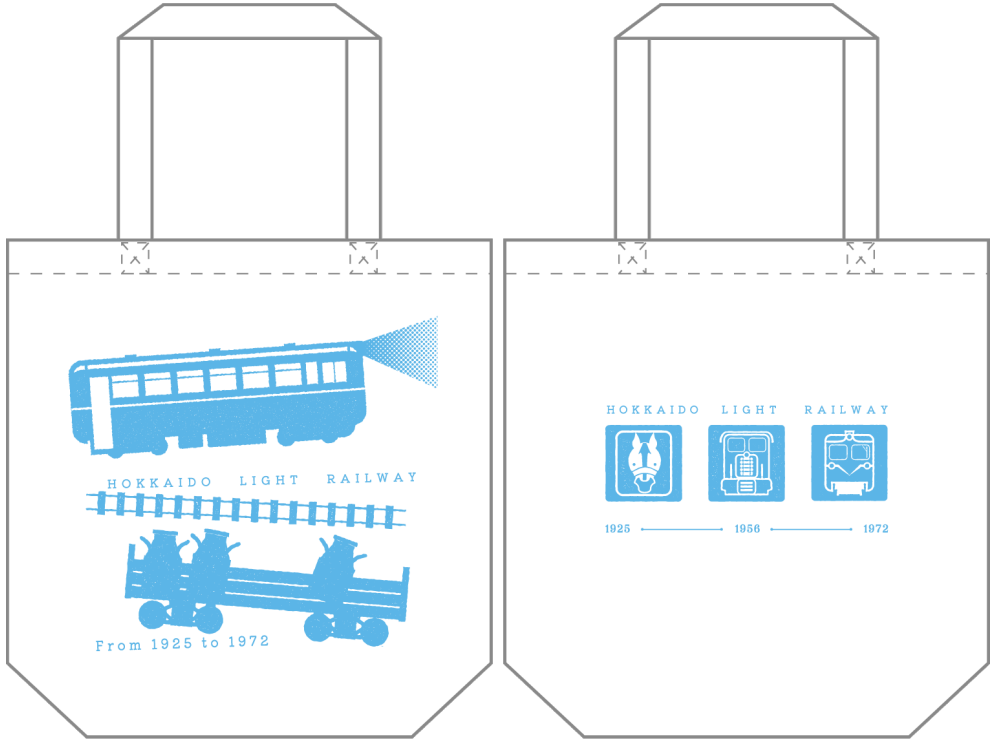
倉羽　博之 様

入賞

音楽の輪が生む平和と調和の未来

［パシフィック・ミュージック・フェスティバル］

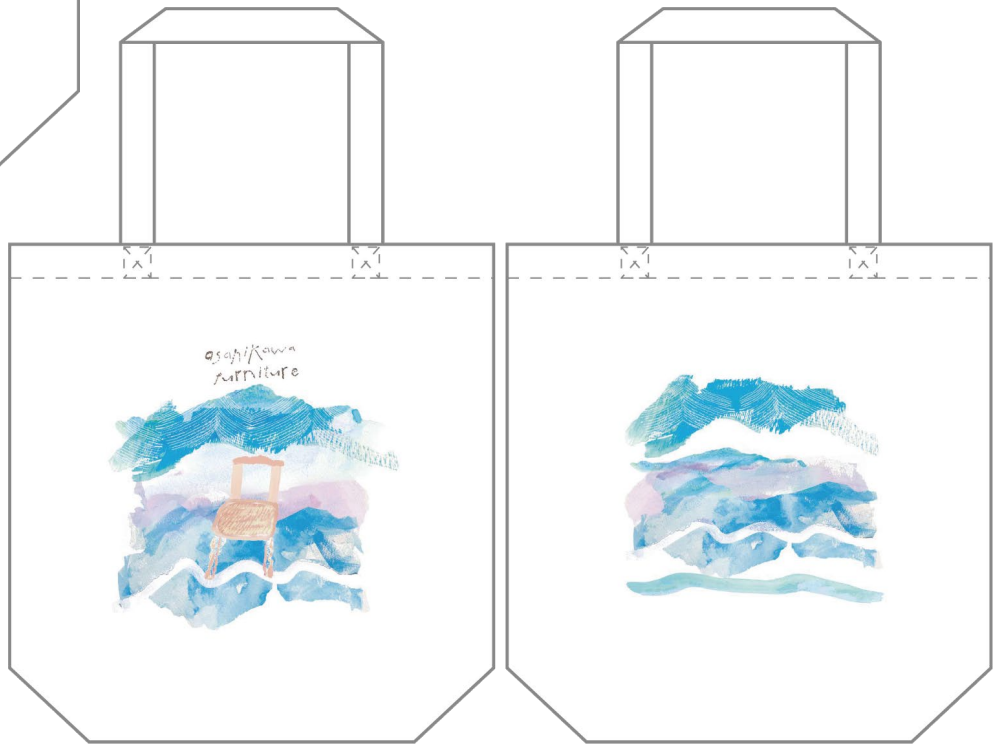
小川 陽 様



歴史の面立ち

［北海道の簡易軌道］

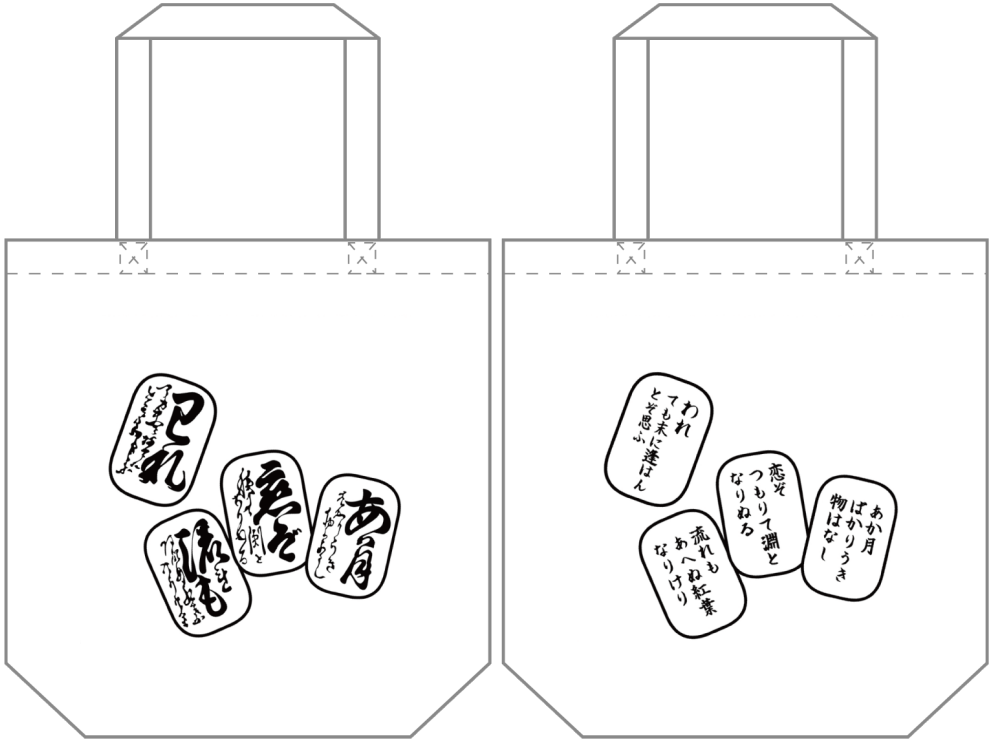
佳作　濱端 華奈子 様



山麓のいこい

［旭川家具］

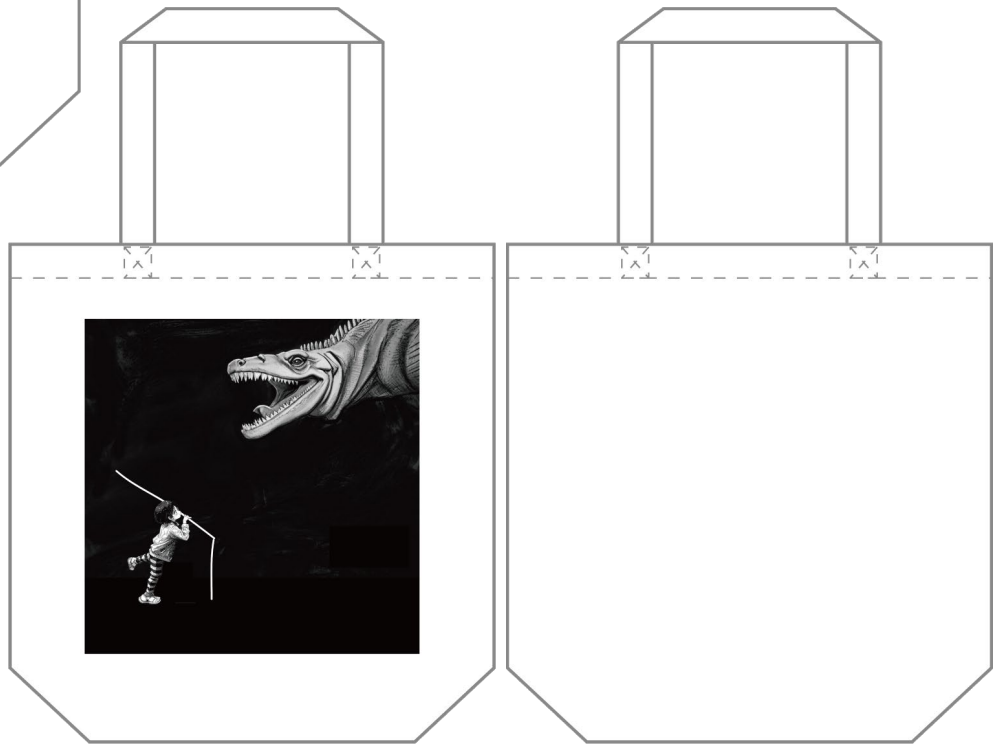
佳作　アンドアノ 様



うらおもて・下の句かるた

［下の句かるた］

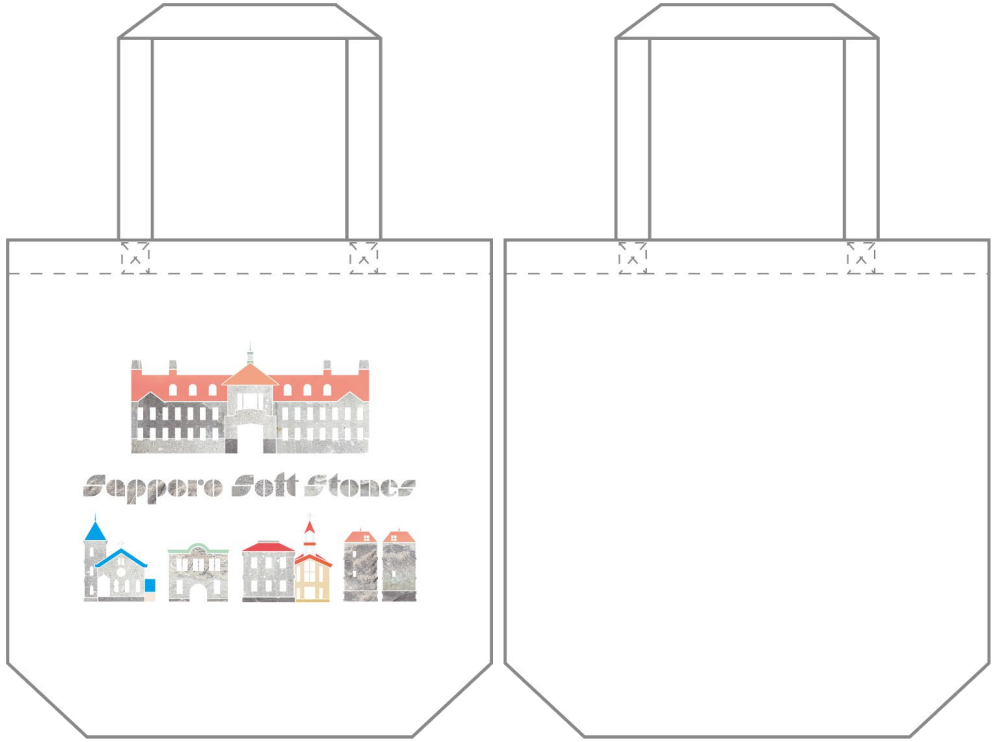
入選　斉藤 優花 様



むかわの冒険

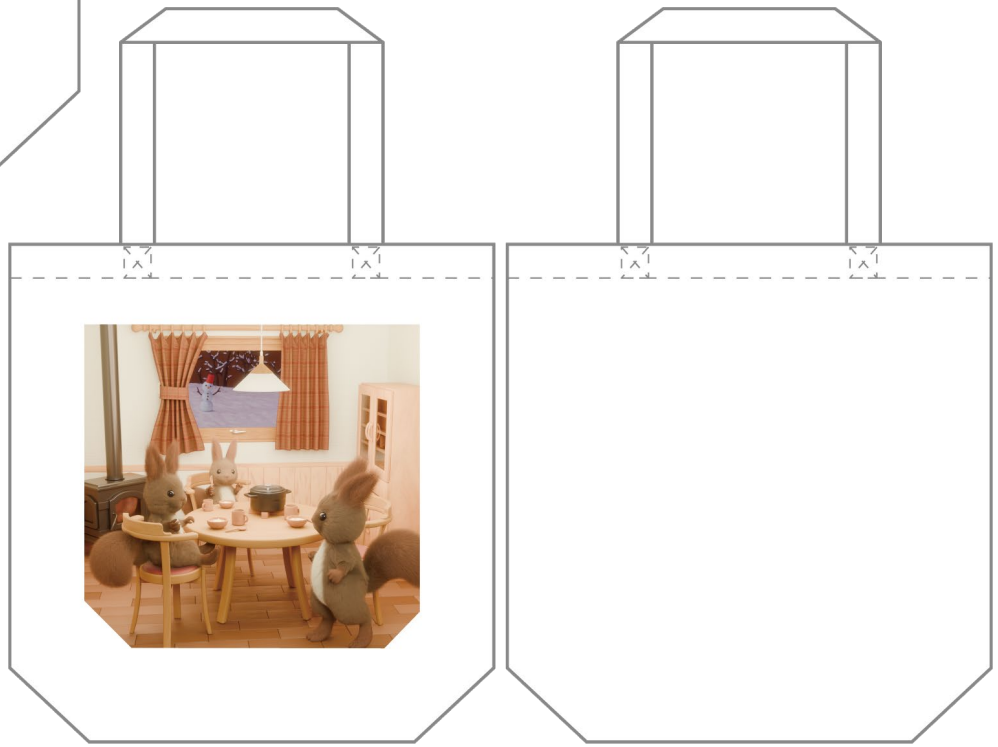
［むかわ町穂別の古生物化石群］

入選　陳柏丞 様



Sapporo Soft Stones
［札幌軟石］

入選 小柴 裕美子 様



暮らしのまんなかに、旭川家具
［旭川家具］

入選 横井 遥佳 様